

# 健康だより

## 日本における「結核」の今 一日平均 28 人診断の現実

日本はようやく 2021 年に結核低まん延国の水準（罹患率が人口 10 万対 10 人以下）を達成しましたが、結核は今でも年間 10,000 人以上の新しい患者が発生し、1,600 人以上が命を落としている日本の主要感染症です。結核について正しく知り、ひとり一人の意識と行動で結核のまん延を防ぎましょう。



### 結核で知っておきたい5つのこと

#### Q1 結核の症状は？

**A1** 特徴的なものがなく、初期には目立たないことが多いです。咳やたんが2週間以上続いたり、微熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

#### Q2 結核はどうやってうつるの？

**A2** 結核が進行すると、咳やくしゃみなどによって、空気中に結核菌が飛び散るようになります。その結核菌を吸い込むことで周りの人に感染が広がります（空気感染）。

#### Q3 普段から気を付けることは？

**A3** 定期的に健康診断を受けることが重要です。結核を発症しても、早期に発見できれば重症化だけではなく、家族や友人等への感染拡大も防ぐことができます。

#### Q4 どんな人が結核と診断されているの？

**A4** 新しい患者は高齢者に多く、およそ75%が60歳以上です。また若年の新規患者では、特に外国生まれの患者の割合が増えています。

#### Q5 結核は治療すれば治るの？

**A5** 結核は通常、薬（抗結核薬等）を医師の指示通りに飲めば治ります。一般的な治療期間は6か月～9か月です。治療の途中で薬を飲むのをやめてしまったり、指示された通りに薬を飲まなかったりすると、結核菌が薬に対して抵抗力（耐性）を持ってしまい、薬の効かない結核菌（耐性菌）になってしまう可能性があります。医師の指示を守って、治療終了まできちんと薬を飲み続けることが最も重要です。

参考：厚生労働省「結核リーフレット」（令和5年度版）  
公益財団法人結核予防会「結核について」